

講義コード	519400103	
講義名	環境（指導法） EF	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科（短大）	
講義開講時期	前期	
基準単位数	1	
時間	0.00	
代表曜日	火曜日	
代表時限	2 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教職に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
専任教員	青木 章彦	指定なし
専任教員	教務委員会（短大）	指定なし

授業の概要

授業の概要

現代の幼児を取り巻く環境や幼児と環境との関わりについての専門的事項を踏まえ、幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらい及び内容について理解を深め、幼児の発達に即して、深い学びが実現する過程を踏まえて領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育の構想、指導方法を身に付ける。

5領域の一つである「環境」について、教科書に沿って学ぶ。また、身近な環境を知るために、ミニレポート「作短日記」を実践し、毎回数名ずつ発表する。毎回、プリントを配布して授業を進める。

授業の方法

①プレゼンテーションの方法

授業では、板書と配布印刷物、ICTを活用する。また、DVD教材なども見る。

②授業形態

講義形式で説明する。

幼児向けの遊びを、体験を通して理解する。

模擬保育を行う。

「作短日記」の発表を行う。

③アクティブラーニング

作短日記（毎週提出するミニレポート）、作短日記の発表（プレゼンテーション）、各種の遊び（体験学習）、グループワークなどを行う。

理解度確認のために、ICTを用いて確認テストを行う。

④課題に対するフィードバックの方法

体験学習については、体験の後に解説を行う。

確認テストの後に、解答の解説を行う。

プレゼンテーションには、ルーブリック評価を行う。

レポート課題には、ルーブリック評価を行う。

授業の到達目標及びテーマ

授業の到達目標及びテーマ

子どもの発達を乳児保育の3つの視点と、保育5つの領域を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。領域「環境」においては、周囲の様々な環境に好奇心や探究心を持って関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養うことを理解する。

(1)幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解する。

1)幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本、領域「環境」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。

2)領域「環境」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。

3)幼稚園教育における評価の考え方を理解している。

4)領域「環境」に関わる周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする経験と、小学校以降の教科等とのつながりを理解している。

(2)幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。

1)幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解している。

2)領域「環境」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。

3)指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。

4)模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。

5)領域「環境」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

ディプロマ・ポリシーの、「2.幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している。」、「4.幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を修得している。」、「8.地域社会が抱える課題、特に幼児教育の課題に向けて主体的に取り組むことができる。」を達成するための科目である。

到達目標については、学修成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に、①、②、③を重視する。

授業計画表

回	担当教員
第1回	幼児教育の基本と保育内容「環境」-保育内容の基本的構造と領域「環境」のねらい、内容について、幼小連携について
第2回	子どもの発達と領域「環境」-幼児期にふさわしい環境と環境構成の実際
第3回	領域「環境」のねらい、内容の展開の実際（園内活動）-園内で行われる幼児の遊びや活動の事例から
第4回	領域「環境」のねらい、内容の展開の実際（園外活動）-園外で行われる身近な施設や情報に関わる活動の事例から
第5回	自然に親しみ、植物に触れる保育の実際（計画立案）-指導計画立案（メダカ等の小動物の飼育やハツカダイコン等の野菜の栽培）
第6回	自然に親しみ、植物に触れる保育の実際（栽培の実践）-模擬保育（メダカ等の小動物の飼育やハツカダイコン等の野菜の栽培）
第7回	自然に親しみ、植物に触れる保育の実際-実践の省察、改善（メダカ等の小動物の飼育やハツカダイコン等の野菜の栽培）
第8回	標識・文字等に関わる保育の実際-園生活や活動、遊びの中で標識、文字、情報等に触れる活動とは
第9回	数量・図形等に関わる保育の実際-園生活や遊びの中で、数量・図形等への関心・感覚を豊かにする活動とは
第10回	生活に関係の深い情報や施設に関わる保育の実際-園生活や遊びの中で身近な情報、日本文化や異文化に触れる活動とは
第11回	身近な素材や自然物を用いた保育の実際（計画立案）-指導計画立案（身近な物や自然物を使用しての遊具製作）
第12回	身近な素材や自然物を用いた保育の実際（素材の収集）-模擬保育（大学等の周辺の季

	節の自然物の収集、分類整理)
第13回	身近な素材や自然物を用いた保育の実際（模擬保育）-模擬保育（自然物を用いて遊べる遊具製作）
第14回	身近な自然物や物に関わる保育の振り返り -実践の省察、改善（模擬保育後の振り返り）
第15回	環境に関わる現代的課題 -アプローチカリキュラム、ESD、ユニバーサルデザイン、インクルーシブ保育（障害のある幼児に配慮した指導を含む。）

授業時間外の学修

毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておくこと（所要時間90分）。また、同時に、次回の授業範囲を伝えるので、事前課題を学習すること（所要時間90分）。

毎回、作短日記（ミニレポート）を、Teamsで提出すること。

実務経験の有無

ディプロマポリシーとの関連

① 幼児教育者観	② 知識・技能	③ 実践力と実務能力	④ 人間性と協調性
◎	◎	◎	○

ルーブリック

評価項目	優秀 (excellent)	平均 (average)	途上 (developing)	未達 (unachieved)
理解度	授業内容を100%理解しており、授業内容を超えた自主的な学修が行えていると認められる	授業内容をほぼ95%程度理解しており、自主的な学修も少し行えていると認められる	授業内容の理解はほぼ75%程度であることが認められる	授業内容の理解は70%以下と判断できるため、レポートへの助言・新たな資料提供等の支援を行っている
課題解決能力	他からの支援を受けずに独自の能力で課題を解くことができるとともに、解法が定まらない他者に的確なアドバイスができる	基本的に他からの支援を受けずに独自の能力で課題を解くことができる	参考資料を参考にしたり他からの支援を少し受けながら自身の能力で課題を解くことができる	参考資料を参考にしたり他からの支援を受けたとしてもなかなか自身の能力で課題を解くことが難しいので、できるだけ一緒に課題解決ができるよう支援している
調査する力 (予習も含む)	自ら進んで予習範囲を越えて調べるとともに、それを他者に説明することができる	定められた予習範囲について自分の力で調べることができる	定められた予習範囲について調べてはいるが、その理解にはあいまいな点が多く、不十分な部分がある	定められた予習範囲について調べられない。もしくは内容が不十分である
レポート力 (復習も)	テーマについて、授業で紹介した方法、もしくはそれに類する独自の手法を使った分析が	テーマについて、授業で紹介した方法で分析が十分に	テーマについて、授業で紹介した方法で分析がなされている	テーマについての分析がなされていない

含む)	十分になされている	なされている		
-----	-----------	--------	--	--

成績評価法（表形式）

	評価基準	備考
定期試験	40%	期末試験で、授業内容全般の理解度を評価する。
小テスト等	10%	小テストやミニレポートを評価する。
成果発表	10%	「作短日記」等の発表を評価する。
授業への貢献度		
レポート	40%	レポートで、授業内容の習得状況を評価する
その他		

課題へのフィードバック方法

定期試験や小テストの結果について	課題（レポート等）について	模擬授業、プレゼン、発言等について
その都度解説、講評する	その都度解説、講評する	その都度解説、講評する

ICTを活用した双方向型授業の内容

<p>クリッカー、アンケート、小テスト等 ビデオ会議システム チャット 掲示板の活用 メール等の活用</p>
--

アクティブラーニングの割合

総授業時間数の30～60%程度のアクティブラーニングである

アクティブラーニングの内容

書く・話す・発表する等の活動におけるAL	経験値・技能を高める活動におけるAL	授業時間外におけるAL
<p>グループワークのディスカッションやディベート（議論の場と時間） プレゼンテーション 小テストや授業内レポートの活用 調べ学習・調査の活用</p>	<p>実験観察・実習 フィールドワーク</p>	<p>授業前レポート（予習） 授業後レポート</p>

教科書

『事例で学ぶ保育内容<領域>環境』 福元 真由美 (編集) 萌文書林 ¥2,160 『平成29年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』 チャイルド本社 ¥540

参考書

『小さな自然観察』 日本自然保護協会 思索社 ¥1,680

『ふるさとを感じるあそび事典』 山田卓三編 農文協 ¥1,995

SDGsとの関連

4. 質の高い教育をみんなに

特記事項等

①実務経験のある教員
特になし

②ナンバリング
SCO1103

③オンライン授業の実施方法
Teamsによる教材提供、リアルタイム授業、小テスト、レポート等、また、ハイブリッド式授業を行う。

④その他の特記事項
特になし

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 224研究室
火・水・木・金が出講日です。直接、研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mail

aoki@sakushin-u.ac.jp

成績評価法

- ①試験 40% 期末試験で、授業内容全般の理解度を評価する。
- ②レポート 40% レポートで、授業内容の習得状況の評価する。
- ③小テスト等 10% 確認テスト及び授業態度を評価する。
- ④成果発表 10% 発表について評価する。